

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) <p style="text-align: center; font-weight: bold;">介護過程 I</p>	授業の種類 <p style="text-align: center;">(講義・演習・実習)</p>	授業担当者 <p style="text-align: center; font-weight: bold;">川端 文悟</p>	
授業の回数 <p style="text-align: center; font-weight: bold;">15回</p>	時間数(単位数) <p style="text-align: center; font-weight: bold;">30時間 (1単位)</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center; font-weight: bold;">1年 前期</p>	必修・選択 <p style="text-align: center; font-weight: bold;">必修</p>
[授業の目的・ねらい] 介護過程の意義・目的を理解し、介護過程の展開の全体像を把握するために、ICFに基づいたアセスメントができる能力を養う			
[授業全体の内容の概要] 利用者の生活を支援していく上で、その利用者が抱えている問題はなにか、どう生活していきたいと思っているのか等、本人からの主観的情報、周囲の客観的情報をもとに分析・解釈・統合し、自立に向けての課題(ニーズ)を事例に基づき導き出す。			
{授業修了時の達成課題(到達目標)} 介護過程の意義・目的を理解し、介護過程のプロセス、ICFの視点で事実を捉え、利用者の抱える生活課題を導き出すことの重要性を理解できる。また、事例検討や事例研究における意義と展開方法を理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	介護過程を学ぶために	ガイダンス「介護過程とは」	
2	介護過程の意義 ①	介護過程の意義・目的・全体像 ・介護過程に基づく利用者の暮らしの支援・展開プロセス	
3	介護過程の意義 ②	介護支援における介護過程の必要性 ・ICFの視点で利用者をとらえる	
4	介護過程の意義 ③	「暮らしって何だろう」自分の生活を振り返ってみよう ・高齢社会の現状と高齢者の日常について学び、生活への希望や課題を理解する(高齢者の現状の理解)	
5	介護過程の意義 ④	必要な情報を収集するためのコミュニケーションを学ぶ ・「かわり」って何だろう ・かわりかたの基本はコミュニケーション	
6	介護過程の意義 ⑤	相手の立場になって考える ・かわりから見えてきたもの ・利用者の願いや思いに気づき、その思いをくみ取る	
7	介護過程の理解 ①	課題解決思考について理解する	
8	介護過程の理解 ②	介護過程の展開	
9	介護過程の理解 ③	アセスメント(情報収集の意義・方法)	
10	介護過程の理解 ④	事例を通して客観的な事実を導き出す ・ICFモデルを活用した情報収集の方法	
11	介護過程の理解 ⑤	アセスメント(解釈・関連付け・統合化)	
12	介護過程の意義 ⑥	アセスメント(解釈・関連付け・統合化)	
13	介護過程の意義 ⑦	アセスメント(生活課題の導き出し)	
14	介護過程の意義 ⑧	アセスメント(生活課題の導き出し)	
15	まとめ・定期試験		
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 第2版 9巻 介護過程 <p style="text-align: right;">中央法規</p>		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験成績・課題および授業態度、出席要件等を加味し総合評価する(基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅠ-1	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 木村 あけみ																																													
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 前期																																													
必修・選択 必修																																															
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>介護実践の根拠となる人体の構造や機能を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</p> <p>からだのしくみが理解できる。</p>																																															
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 オリエンテーション</td> <td style="width: 40%;">からだのしくみの理解①</td> <td style="width: 30%;">からだのつくりの理解</td> </tr> <tr> <td>2 からだのしくみの理解②</td> <td>人体の構造と機能</td> <td>細胞・組織・器官・器官系</td> </tr> <tr> <td>3 からだのしくみの理解③</td> <td>脳・神経</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 からだのしくみの理解④</td> <td>感覚器系 (視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 からだのしくみの理解⑤</td> <td>呼吸器系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 からだのしくみの理解⑥</td> <td>循環器系 (心臓)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 からだのしくみの理解⑦</td> <td>循環器系 (血管系・リンパ系)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 からだのしくみの理解⑧</td> <td>消化器系 (消化管)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 からだのしくみの理解⑨</td> <td>消化器系 (消化腺)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 からだのしくみの理解⑩</td> <td>腎・泌尿器系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11 からだのしくみの理解⑪</td> <td>骨・筋肉</td> <td>骨・関節</td> </tr> <tr> <td>12 からだのしくみの理解⑫</td> <td>筋肉</td> <td>神経系</td> </tr> <tr> <td>13 からだのしくみの理解⑬</td> <td>生殖器・内分泌</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14 からだのしくみの理解⑭</td> <td>血液・体液・リンパ液</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15 まとめ・試験</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			1 オリエンテーション	からだのしくみの理解①	からだのつくりの理解	2 からだのしくみの理解②	人体の構造と機能	細胞・組織・器官・器官系	3 からだのしくみの理解③	脳・神経		4 からだのしくみの理解④	感覚器系 (視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚)		5 からだのしくみの理解⑤	呼吸器系		6 からだのしくみの理解⑥	循環器系 (心臓)		7 からだのしくみの理解⑦	循環器系 (血管系・リンパ系)		8 からだのしくみの理解⑧	消化器系 (消化管)		9 からだのしくみの理解⑨	消化器系 (消化腺)		10 からだのしくみの理解⑩	腎・泌尿器系		11 からだのしくみの理解⑪	骨・筋肉	骨・関節	12 からだのしくみの理解⑫	筋肉	神経系	13 からだのしくみの理解⑬	生殖器・内分泌		14 からだのしくみの理解⑭	血液・体液・リンパ液		15 まとめ・試験		
1 オリエンテーション	からだのしくみの理解①	からだのつくりの理解																																													
2 からだのしくみの理解②	人体の構造と機能	細胞・組織・器官・器官系																																													
3 からだのしくみの理解③	脳・神経																																														
4 からだのしくみの理解④	感覚器系 (視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚)																																														
5 からだのしくみの理解⑤	呼吸器系																																														
6 からだのしくみの理解⑥	循環器系 (心臓)																																														
7 からだのしくみの理解⑦	循環器系 (血管系・リンパ系)																																														
8 からだのしくみの理解⑧	消化器系 (消化管)																																														
9 からだのしくみの理解⑨	消化器系 (消化腺)																																														
10 からだのしくみの理解⑩	腎・泌尿器系																																														
11 からだのしくみの理解⑪	骨・筋肉	骨・関節																																													
12 からだのしくみの理解⑫	筋肉	神経系																																													
13 からだのしくみの理解⑬	生殖器・内分泌																																														
14 からだのしくみの理解⑭	血液・体液・リンパ液																																														
15 まとめ・試験																																															
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>こころとからだのしくみ (中央法規)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>確認テスト成績、授業態度、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準: 60点以上を合格)</p>																																														

授業概要

授業のタイトル(科目) 介護総合演習 I	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 専任教員
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 1年 ・ 前期
必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>実習の教育効果を上げるため、介護実習前に介護技術の確認を行う。また、実習先のオリエンテーションを受けるための計画・準備を進めるなど、実習に対する総合的な学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>実習のテキストや実習の手引きを参考に、介護実習全般について学び、実習方法や記録の書き方を学習する。また、介護現場について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>○「介護総合演習」は「介護実習」との組み合わせの学びであることを理解する。</p> <p>○介護実習1において、課題・目標の達成方法を習得できるようにする。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス/2年間の実習について/実習調書について 2 施設の理解 3 実習施設の理解/配属先発表/個人票説明、下書き作成 4 個人票清書完成/実習先の行き方確認 5 接遇について/事前電話の仕方について 6 接遇について/事前電話の仕方について 7 実習日誌の書き方/身だしなみチェック 8 実習の心得/報告会(原稿:感想)について 9 報告会資料下書き作成・清書完成 10 報告会発表原稿作成・発表の仕方 11 実習4-① 報告会 12 実習4-① 報告会 13 介護実習4-①評価返却/実習施設の理解 14 実習施設の理解/配属先発表/個人票作成 15 期末試験(見極めテスト) 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 「介護総合演習・介護実習」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>試験成績・課題及び意欲、提出物、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準:60点以上を合格とする)</p>

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間の尊厳と自立	授業の種類 講義		授業担当者 石山 明子																																													
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30 時間 (2)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修																																													
<p>[授業の目・ねらい] 人間の理解を基準として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間の自己理解・他者理解、人権尊重とアドボカシー及び自立支援と支援者・被支援者との関係を理解し、よりよい対人援助者としての基礎をつくる。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人間」の理解を図る。 ・人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。 ・介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。 																																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 30%;">オリエンテーション</td> <td style="width: 65%;"></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人間の尊厳と人権・福祉理念</td> <td>人間の尊厳と利用者主体①</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人間の尊厳と人権・福祉理念</td> <td>人間の尊厳と利用者主体②</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人間の尊厳と人権・福祉理念</td> <td>人権思想と潮流とその具現化</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人間の尊厳と人権・福祉理念</td> <td>人権や尊厳に関する日本の緒規定</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人間の尊厳と人権・福祉理念</td> <td>社会福祉領域での人権・福祉理念の変換①</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>人間の尊厳と人権・福祉理念</td> <td>社会福祉領域での人権・福祉理念の変換②</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>人間の尊厳と人権・福祉理念</td> <td>人権尊重と権利擁護①</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>人間の尊厳と人権・福祉理念</td> <td>人権尊重と権利擁護②</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>自立のありかた</td> <td>自立の概念と多様性①</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>自立のありかた</td> <td>自立の概念と多様性②</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>自立のありかた</td> <td>自立とは</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>自立のありかた</td> <td>介護を必要とする人々の自立と自立支援</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>自立のありかた</td> <td>介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ・定期試験</td> <td></td> </tr> </table>				1	オリエンテーション		2	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体①	3	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体②	4	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権思想と潮流とその具現化	5	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権や尊厳に関する日本の緒規定	6	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変換①	7	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変換②	8	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権尊重と権利擁護①	9	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権尊重と権利擁護②	10	自立のありかた	自立の概念と多様性①	11	自立のありかた	自立の概念と多様性②	12	自立のありかた	自立とは	13	自立のありかた	介護を必要とする人々の自立と自立支援	14	自立のありかた	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性	15	まとめ・定期試験	
1	オリエンテーション																																															
2	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体①																																														
3	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体②																																														
4	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権思想と潮流とその具現化																																														
5	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権や尊厳に関する日本の緒規定																																														
6	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変換①																																														
7	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変換②																																														
8	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権尊重と権利擁護①																																														
9	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権尊重と権利擁護②																																														
10	自立のありかた	自立の概念と多様性①																																														
11	自立のありかた	自立の概念と多様性②																																														
12	自立のありかた	自立とは																																														
13	自立のありかた	介護を必要とする人々の自立と自立支援																																														
14	自立のありかた	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性																																														
15	まとめ・定期試験																																															
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]																																														
「人間の理解」(中央法規)・作成したプリント		試験成績・確認テスト・課題及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価とする。(基準:60点以上を合格とする)																																														

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅲ (点字)	授業の種類 (講義 演習 ・ 実習)	授業担当者 井 口 二 郎
授業の回数 8 回	時間数 (単位) 1 6 時間	配当学年・時間 2 年 前期
必修・選択 必 修		
<p>[授業の目的・ねらい] 視覚障害の概念、定義、分類について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 視覚障害の原因による眼疾患とその見え方について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 視覚障害について、その概要を理解し、適切な対応につなげることができる。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 視覚障害の概念、定義、分類について学ぶ。 2 視覚障害の原因による眼疾患とその見え方について学ぶ。 3 視覚障害からもたらされる困難さを軽減するためにどのような取り組みを行うのかを学ぶ。 4 弱視児の視覚認知を学び、様々な補助具を使用した教育方法を学ぶ。 5 視覚障害者が自立して歩行するための方法について学ぶ。 6 点字の成り立ち、点字の構成など点字とはどのようなものかを理解する。 7 点字の読みと書きを実地を通して理解し、目で読めるようにする。 8 定期試験。総合練習の問題を通して行う。 		
[使用テキスト・参考文献] 「片手で2匹つかんだよ～視覚障害教育を初めて学ぶ方のためのテキスト」著者 井口二郎 出版社 白鷗社	[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題及び意欲、出席要件などを加味し総合評価する。(基準：60点以上)	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 手 話	授業の種類 講義・演習	授業担当者 小 川 雅 夫
授業の回数 1 5 回	時間数 (単位数) 3 0 時間	配当学年・時期 2 年 後期 選択
<p>【授業のねらい・目的】</p> 聴覚障害について理解するとともに、言語としての手話を、演習を通して使えるようにする。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> 先天性、後天性も含め誰しものが関係しうる「障害」に対し、その状況に陥った人とどのようにコミュニケーションを行っていくべきかを、主として聴覚障害者のコミュニケーション手段の理解を通して探る。 <p>【授業終了時の達成課題 (到達目標)】</p> 聴覚障害者について理解し、学習した手話を使って簡単なコミュニケーションができる。		
<p>[授業に日程と各階のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>授業は演習と講義を織り交ぜて行う。手話演習を講義の合間と講義終了時に同内容で行い、定着を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 言葉による説明がなくても「状況」がわかることについて、「母語」との関係から理解する。 2 様々なコミュニケーション手段を紹介する。併せて手話等の簡単な使い方を知る。 3 聴覚障害教育の歴史とコミュニケーション手段について知る。 4 聾者の手話言語と聴者の会話言語の根本的な違いを知る。 5 会話言語 (一次言語) と書記言語 (二次言語) の違い、二次言語獲得の必要性について考える。 6 自分自身が二次言語獲得を時期について振り返って考える。 7 手話も言語であるが、状況をすべて伝えることができる万能ではないことを理解する。 8 日本語言語が状況依存 (コンテクスト) の高い言語であることを知ったうえで手話を考える。 9 同じ視覚・聴覚障害でも、見え方、聞こえ方、感覚が個々により大きく異なることを知る。 10 聴覚障害者の言語環境および聞こえの程度が、話すことにどのような影響を与えるか考える。 11 聴覚障害者が人工内耳手術を選択する状況、人工内耳の現状を理解する。 12 母語として手話を使う人、第二言語として手話を使う人の違いを理解する。 13 聴覚障害者が社会生活を送る上で感じる様々な困難な状況を事例から知る。 14 手話だけで教育が行われている学校の様子とそこから見える課題、手話の限界について考える。 15 日本人として日本語手話を使うこと、日本手話を使うことの違いを考える。 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> 講義時にプリントを配布 参考文献「視覚聴覚障害者の教育支援」 (淑徳大学)	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> 試験成績および課題提出に出席要件を加味し、総合的に評価する。 (基準：60点以上を合格)	

授 業 概 要

現場で使える レクリエーション活動援助法	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実技)		授業担当者 加藤 京子
授業の回数 1.5回	授業数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 選択
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>1. レクリエーションを通して「楽しい」を実感し、介護福祉士としての資質を高め、意欲を高揚させる。</p> <p>2. レクリエーション活動を通して、コミュニケーション・ワークを体験し、広く人間関係を身につけさせる。</p> <p>3. レクリエーションの種々の素材・アクティビティを体験し、介護福祉士としてのレク援助技術を身につけさせる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>1. 講義=レクリエーションとは。レクの意義。介護福祉におけるレクの実際。コミュニケーション・ワークの意義</p> <p>2. 演習=レク・プログラムの企画・運営。対象に合わせたレク・ワーク。安全管理の方法。</p> <p>3. 実技=アイスブレイキング、ホスピタリティの実際。レク・スポーツ、レク素材提供の技術の取得。</p> <p>【授業終了時の到達課題】(到達目標)</p> <p>レクリエーションの意義・大切さ体得し、介護福祉士としての資質が高められ、より多くの人々に生きがいを提供することができる人格の形成を目標とする。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>1 「介護福祉士とレクリエーション」 講義：オリエンテーション。介護福祉とレク 室内で楽しむレク(1) 実技：頭を使って楽しむレク 手先を使って楽しむレク</p> <p>2 「室内で楽しむレク(2)」 演習：リズム遊び歌(肩たたき歌)を体験。自分で考えた肩たたき歌を講師と楽しむ。 実習：「オセロ」を講師と対戦→8マスでは時間がかかる→短時間で楽しめるオセロ板と駒の作成</p> <p>3 「造形(絵画)活動を楽しむレク(1)」 講義：絵具等を使用する造形活動の楽しさ、意義、癒し効果 実技：絵の具等を使った様々な造形体験をする。</p> <p>4 「子どもと楽しむレク」 実技：障害のある子どもと一緒に楽しめる様々なレク体験。 障害のある子どもと一緒に 実習：小さな子どもや障害のある子ども楽しめるレク材を作成→体験して楽しむ。</p> <p>5 「手先を鍛えるレク・二人で向き合うレク」 実技：簡単な繰り返し作業でできた喜びを味わえる手芸的な活動体験 演習：卓上で二人で向き合いながらできる簡単なレク材の体験→自分なら…とアレンジ 1～5を振り返り、レポート作成・提出</p> <p>6 「じゃんけんで楽しむレク・カードで楽しむレク」 実技：「じゃんけん」をして楽しむレク材を体験する。 実習：カードで楽しむレク材を体験→作成→講師と一緒に楽しむ。</p> <p>7 「作って楽しむレク(1)」 講義：エコクラフトの意義・自分で工夫する楽しさ・材を集める等心がけておくこと 身近なエコ材料 実習：身近にある様々な材料を使って遊べるレク材を使った活動を体験→作成→講師と楽しむ。</p> <p>8 「作って楽しむレク(2)」 講義：新聞紙を使った紙粘土の作り方、紙ビーズの作り方と作品例 自作紙粘土・紙ビーズ 実習：紙年度を使った作品作り・紙ビーズを使った作品作り 制作過程も楽しみながら作成</p> <p>9 「上達していく自分を楽しむレク」 講義：いきなり難しい活動をするのではなく、対象者の興味・関心や心情に寄り添って 易→難へ 実習：やればやるほど上達を感じて楽しめる活動を考える。→レク材作成 ※「8」の活動の仕上げをする。</p> <p>10 「季節を感じて楽しむレク」 講義：季節ごとの掲示物やイベントを計画・作成・運営していく活動の意義 演習：自分が想定した場における劇発表の計画を練り、台本や用具を作成する。 自分が選んだ季節の掲示物を作成する。 6～10を振り返り、レポート作成・提出</p> <p>11 「造形活動を楽しむレク(2)」 実習：ストローとモールを使ったオブジェを作って楽しむ。(安全管理)折り紙を使って 同様に。 演習：対象者を想定して、作成手順や安全な活動の仕方等の注意点をまとめる。</p> <p>12 「GWTを体験しよう」 講義：GWTとは？卓上ゲームの楽しみ方 「卓上ゲームを楽しむレク」 実習：GWTを体験し、「振り返り」をする。「囲碁」「将棋」の世界を知る。→講師と対戦</p> <p>13 「チャレンジ・ザ・ゲーム」 講義：「チャレンジ・ザ・ゲーム」の概要・意義・活用の仕方等 「マンカラ」の遊び方 「マンカラ」を体験 実習：少人数でもできる活動の体験 「マンカラ」の体験→身近な材料で作成</p> <p>14 「子どもと楽しむレク」 実技：室内遊びの体験 身近な用具を使ったレク体験 「イベントを計画」 演習：室内で行う「お楽しみ会」の計画を立てる。 ※安全で楽しめる活動 ※人数 ※時間等想定</p> <p>15 「認知症の方と楽しむレク」 講義：認知症の方とどのように接していくか どんなレク材を準備したら良いか 「まとめ」 演習：対象者を想定した安全で楽しいクラフト作成の計画を立て、講師と一緒に楽しむ。 講義：年間授業のまとめをする。これからの介護福祉士のあり方等を再確認→筆記試験</p>			
【使用テキスト・参考文献】 ・授業担当者の作成資料・持参する文献		【単位認定の方法及び基準】 ・筆記試験の成績・提出させた課題の評価及び意欲的な取り組み・出席要件等を加味し、総合評価する。 (基準：60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) <h3 style="text-align: center;">障害の理解 I</h3>	授業の種類 <p style="text-align: center;">(講義) (演習)・実習)</p>		授業担当者 <h3 style="text-align: center;">本間 直毅</h3>
授業の回数 <h3 style="text-align: center;">15 回</h3>	時間数(単位数) <h3 style="text-align: center;">30 時間 (2単位)</h3>	配当学年・時期 <h3 style="text-align: center;">1年・後期</h3>	必修・選択 <h3 style="text-align: center;">必修</h3>
障害のある人の身体機能面、心理面、生活のしづらさに関する基礎的知識を習得するとともに、「障害者福祉にかかわる者が持つべき専門性」も視野に入れる。			
【授業全体の内容の概要】 障害の概念について基礎的知識を学び、障害の捉え方、障害者福祉の基本理念を理解していく過程を通して、障害者の介助に不都合を生じさせない心構えを習得できるよう教授する。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 <input type="radio"/> 障害者福祉の基本理念、各法定義を深く理解することができる。 <input type="radio"/> 障害児・者やその家族のさまざまなニーズを理解した支援のあり方を考えられるようになる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数			
1 障害とは何か。障害を持つことの意味を追体験する。ICF の考え方			
2 障害の概念 - 障害のある人の暮らし・わが国における法的定義・歴史の変遷			
3 障害者福祉の基本理念 - 「ノーマライゼーション」「リハビリテーション」「インクルージョン」の理解			
4 障害者福祉の基本理念 - 「障害者差別解消法」の理解			
5 視覚障害のある人の生活			
6 聴覚障害、言語機能障害のある人の生活			
7 重複障害のある人の生活			
8 肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活			
9 知的障害のある人の生活			
10 精神障害のある人の生活			
11 高次脳機能障害のある人の生活			
12 発達障害のある人の生活			
13 重症心身障害のある人の生活			
14 相談支援・多職種連携			
15 まとめ・試験			
※テキストの他、必要に応じて補助教材も使用。また各論・各章のボリュームと授業の進捗状況に応じて、計画されたコマとの統合、若しくは、一つのテーマを2つのコマに分割して進行する場合も有りうる。			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 「障害の理解」		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題及び意欲、出席用件などを加味し、総合評価する。(基準: 60点以上)	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間関係と コミュニケーション I		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 川端 文悟	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 前期		必修・選択 必 修	
[授業の目的・ねらい] 対人援助に必要な人間同士の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得することを目的とする。					
[授業全体の内容の概要] 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を講義、演習を通じて学習する。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係について理解できる ・対人関係におけるコミュニケーションが理解できる ・組織におけるコミュニケーションが理解できる 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1 ガイダンス		人間の誕生と介護の関係			
2 自分と他者の理解		自己知覚・他者理解・ジョハリの窓・自己開示			
3 発達心理学からみた人間関係		発達段階・エリクソンの発達段階説			
4 発達心理学からみた人間関係					
5 社会心理学からみた人間関係		認知・認知フィルター			
6 人間関係とストレス		ストレス・ストレッサー・性格傾向・行動様式			
7 コミュニケーションの概念・基本構造		コミュニケーション・言語的コミュニケーション			
8 コミュニケーションの手段		非言語的コミュニケーション			
9 対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション					
10 対人援助における基本的態度		受容・共感・アサーティブ・ノンアサーティブ			
11 対人援助における基本的態度		受容・共感・傾聴			
12 援助的人間関係の形成とバイステックの7原則					
13 援助的人間関係の形成とバイステックの7原則					
14 組織におけるコミュニケーション		ブレインストーミング・ティーチング・コーチング			
15 まとめ・定期試験					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 第2版 1巻 人間の理解 中央法規			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験成績・課題および授業態度、出席要件等を 加味し総合評価する(基準:60点以上を合格)		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会の理解A	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 静間 宏治
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年 後期
必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい] 個人が自立した生活を営むためには、個人、家族、近隣、地域など、社会の単位で人間を捉える視点が必要である。人間の生活と社会の関わり、自助から公助に至る過程について学びながら社会を理解していく。</p>		
<p>[授業全体の内容の概要] 個人の「生」や「生活」をなぜ社会で支援するのか。介護保険をはじめとした社会保障制度や社会と生活のしくみを学ぶことによって社会と個人の関係を理解する。</p>		
<p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○生活と社会のしくみが理解できる。 ○地域共生社会の考え方が理解できる。 ○社会保障制度が理解できる。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活の基本機能 2 ライフスタイルの変化 3 家族の機能と役割 4 社会・組織の機能と役割 5 地域・地域社会 6 地域・地域社会における生活支援 7 地域福祉の発展 8 地域共生社会 9 地域包括ケア 10 社会保障の基本的な考え方 11 日本の社会保障制度の発達 12 日本の社会保障制度のしくみ ① (体系、実施体制)、 13 日本の社会保障制度のしくみ ② (年金保険、医療保険、雇用保険等) 14 現代社会と社会保障制度 15 試験 		
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 社会の理解</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題・授業態度等を加味し、総合評価する。 (基準: 60点以上を合格)</p>	

授 業 概 要

介護現場に役立つ 日誌・報告書の書き方	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実技)	授業担当者 加藤 京子
授業の回数 15回	授業数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年・後期
		必修・選択 選択
【授業の目的・ねらい】 1 介護実習や、就職後の介護現場における日誌や報告書の書き方を習得させ、介護者としての人間形成を育む。 2 表記法の基礎を学び、豊かな言語生活を送ると共に、介護現場の実践に役立てる。 3 滑舌・発声などの基礎を体得したり、報告の模擬体験をすることで、介護現場での事例発表や提案に慣れさせる。		
【授業全体の内容の概要】 1 講義＝表記法(用語・用字、一文一事、5W1H、敬語、主述関係、文末の統一、修正方法)など。 2 演習＝上記の講義をもとにして、実際に日誌・報告書のスキルを重ねる。毎回授業終了後に課題提出。 3 演習＝報告の仕方(滑舌・発声・早口ことばの基礎訓練など)、事例発表の練習。		
【授業終了時の到達課題】(到達目標) 書くことへの苦手意識を払拭し、分かりやすく、より正確に日誌・報告書が書けるようになり、介護士としての支援活動に役立たせる。 豊かな言語生活を通して、介護士としての人間形成を養い、優しく、豊かな人間性を構築する。		
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数		
1 基礎編：日誌・報告書の必要性。何のために書くのか。 応用編：よりよい日誌・報告書を書くために I 自己紹介・日誌の各項目について。		
2 基礎編：表記法Ⅰ 「話しことばと書きことば 表記上の常識」「敬語」 応用編：読みやすい文章とは？優れた文章を読む。		
3 基礎編：表記法Ⅱ 「より伝わりやすい表記法」「である調」と「です・ます調」 応用編：報告の仕方「滑舌、礼、視線、早さ、大きさ」など		
4 基礎編：表記法Ⅲ 「適切な漢字表記」「漢字とひらがな・カタカナの使い分け」 応用編：実習報告をする I 報告書の基礎 何を書くか 報告会で何をどう伝えるか。		
5 基礎編：表記法Ⅳ 「文を短く」「一文一事」「句読点の使い方」 応用編：実習報告をするⅡ 報告会での発表の仕方 姿勢 声の大小 視線「である調」から「です・ます調」へ		
6 基礎編：表記法Ⅴ 「ら抜きことば」「会話体から文体へ」 応用編：実習報告会を終えて 実習報告会の反省をする。お互いに評価しあう。		
7 基礎編：表記法Ⅵ 「主語、述語の二重表現を避ける」「が」と「は」の違い。 応用編：日誌の書き方Ⅰ 「日誌の基礎」「何のために日誌を書くのか」「日記と日誌の違い」		
8 基礎編：表記法Ⅶ 「読み手にとって分かりやすい文とは」「文を短く」「一文一事」 応用編：日誌の書き方Ⅱ 「記録欄の書き方」「事実の記録と完走の記述の混同」		
9 基礎編：表記法Ⅷ 「読み手にとって分かりやすい文とは」「係り受けの関係」「主語と述語の一体」 応用編：日誌の書き方Ⅲ 「目標・考察欄の書き方(1)」「学んだこと、わかったことをどのように書くか」		
10 基礎編：表記法Ⅸ 「読み手にとって分かりやすい文とは」「5W1H」 応用編：日誌の書き方Ⅳ 「目標・考察欄の書き方(2)」「考察」で何を伝えるかを考える。		
11 基礎編：表記法Ⅹ 「読み手にとって分かりやすい文とは」「主題を冒頭に」「文末の強調」 応用編：日誌の書き方Ⅴ 「感想欄と反省欄の違い」		
12 基礎編：表記法Ⅺ 「読み手にとって分かりやすい文とは」「流行語の功罪・省略体」 応用編：日誌の書き方Ⅵ 「感想欄と反省欄の書き方の再確認」		
13 基礎編：表記法Ⅻ 「読み手にとって分かりやすい文とは」「あいまいな表現」 応用編：日誌の書き方Ⅶ 「改めて日誌の目的を考える」		
14 基礎編：表記法ⅩⅡ 「まとめⅠ」「デジタルとアナログの効果的な使い分け」 応用編：日誌の書き方Ⅷ 「まとめⅠ」 「利用者さんに寄り添うには」		
15 基礎編：表記法ⅩⅢ 「まとめⅡ」「表記法に添う復習」 応用編：日誌の書き方Ⅸ 「まとめⅡ」「日誌・記録という自分史」		
【使用テキスト・参考文献】 ・授業担当者の作成資料、持参する文献		【単位認定の方法及び基準】 ・毎回ドリルまたはスキルアップによる課題を提出、及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価する。筆記試験は行わない。 (基準：60点以上を合格)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類		授業担当者
介護の基本 I	(講義 ・ 演習 ・ 実習)		中村 和正
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間(4単位)	1年 前期	必修
【授業の目的・ねらい】			
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしきみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。			
【授業全体の内容の概要】			
介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしきみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】			
<p>○複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解し、説明できる。</p> <p>○地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解し、説明できる。</p> <p>○介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を習得する。</p>			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	授業内容		
1,2	オリエンテーション		
3,4	介護福祉士の基本となる理念	介護の成り立ち 介護福祉を取り巻く状況	
5,6	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の歴史①	
7,8	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の歴史②	
9,10	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の基本理念①	
11,12	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の基本理念②	
13,14	介護福祉士の役割と機能	社会福祉士及び介護福祉士法①	
15,16	介護福祉士の役割と機能	社会福祉士及び介護福祉士法②	
17,18	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割①	
19,20	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割②	
21,22	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士に求められる役割とその養成	
23,24	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士を支える団体	
25,26	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理	
27,28	介護福祉士の倫理	日本介護福祉士会の倫理綱領	
29,30	まとめ・定期試験		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「介護の基本 I」(中央法規) ・作成したプリント 		小テスト・定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価する(基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本 I	授業の種類 (講義 演習 ・ 実習)		授業担当者 中村 和正
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】			
前期に学んだことを活用し、「介護を必要とする人」を、ICF・自立支援・個別ケアの観点から捉えるための学習。また、介護におけるチームケア等について理解するための学習とする。			
【授業全体の内容の概要】			
専門用語の定義・個別ケアの必要性を理解し、具体的展開方法までのプロセスを構築する思考力を培う。ICFの概念定義を学び、ICFが共通言語であることの理解を深める。また、資格取得へむけて各単元で学びの確認小テストを行い、介護福祉士としての意識を確立する。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】			
○自立に向けた介護を理解できる。 ○個別ケアの具体的展開方法を理解できる。 ○ICFの考え方を理解できる。 ○リハビリテーションと介護の関連性を認識できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	授業内容		
1, 2	オリエンテーション	前期の復習	
3, 4	自立に向けた介護	介護福祉における自立支援	
5, 6	自立に向けた介護	ICFの考え方①	
7, 8	自立に向けた介護	ICFの考え方②	
9, 10	自立支援とリハビリテーション	自立支援とリハビリテーション	
11, 12	自立支援とリハビリテーション	自立支援とリハビリテーション・自立支援と介護予防	
13, 14	自立支援とリハビリテーション	自立支援と介護予防	
15	まとめ 定期試験		
	まとめ		
	定期試験		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
・「介護の基本 I」(中央法規) ・作成したプリント		小テスト・定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価する(基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本Ⅱ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 中村 和正
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 社会福祉士及び介護福祉士を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習。 また、介護福祉を必要とする人の生活を多様な視点から支えるしくみについて理解するための学習をする。			
【授業全体の内容の概要】 介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護を受けて生活する人およびその生活について学ぶ。さらに、フォーマルおよびインフォーマルな支援、地域連携について事例を用いて学びを深める。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 ○人間の多様性や複雑性を理解できる。 ○高齢者の暮らしの実際、障害のある人の暮らしを理解できる。 ○介護を必要とする人の生活を支えるフォーマル、インフォーマルな支援、地域連携を理解できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	授業内容		
1	オリエンテーション	前期の復習	
2	介護福祉を必要とする人の理解	私たちの生活の理解①	
3	介護福祉を必要とする人の理解	私たちの生活の理解②	
4	介護福祉を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人たちの暮らし①	
5	介護福祉を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人たちの暮らし②	
6	介護福祉を必要とする人の理解	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解①	
7	介護福祉を必要とする人の理解	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解②	
8	介護福祉を必要とする人の理解	生活のしづらさの理解とその支援	
9	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	フォーマルサービスとは①	
10	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	フォーマルサービスとは②	
11	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	インフォーマルサービスとは①	
12	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	インフォーマルサービスとは②	
13	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	地域連携	
14	まとめ		
15	定期試験		
【使用テキスト・参考文献】 ・「介護の基本Ⅱ」(中央法規) ・作成したプリント		【単位認定の方法及び基準】 小テスト・定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価する(基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術 I		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 川端 文悟																														
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必 修																															
<p>[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護現場で必要とされる人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を理解することにより、利用者に関わる人たちと利用者の関係調整能力を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成と、信頼関係の重要性について理解することができる ・介護におけるコミュニケーションの基本を理解することができる 																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 ガイダンス 実習の振り返り</td> <td style="width: 50%;">プロセスレコード</td> </tr> <tr> <td>2 実習の振り返り</td> <td>実習の振り返り (経験の共有)</td> </tr> <tr> <td>3 介護におけるコミュニケーションの基本</td> <td>前期の振り返り</td> </tr> <tr> <td>4 介護におけるコミュニケーションの基本</td> <td>介護におけるコミュニケーションとは</td> </tr> <tr> <td>5 介護におけるコミュニケーションの基本</td> <td>介護におけるコミュニケーションの対象</td> </tr> <tr> <td>6 介護におけるコミュニケーションの基本</td> <td>援助関係とコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>7 コミュニケーションの基本技術</td> <td>コミュニケーション態度に関する基本技術</td> </tr> <tr> <td>8 コミュニケーションの基本技術</td> <td>コミュニケーション態度に関する基本技術</td> </tr> <tr> <td>9 コミュニケーションの基本技術</td> <td>コミュニケーション態度に関する基本技術</td> </tr> <tr> <td>10 コミュニケーションの基本技術</td> <td>言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本</td> </tr> <tr> <td>11 コミュニケーションの基本技術</td> <td>言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本</td> </tr> <tr> <td>12 コミュニケーションの基本技術</td> <td>目的別のコミュニケーション技術</td> </tr> <tr> <td>13 コミュニケーションの基本技術</td> <td>集団におけるコミュニケーション技術</td> </tr> <tr> <td>14 コミュニケーションの基本技術</td> <td>集団におけるコミュニケーション技術</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ・定期試験</td> <td></td> </tr> </table>					1 ガイダンス 実習の振り返り	プロセスレコード	2 実習の振り返り	実習の振り返り (経験の共有)	3 介護におけるコミュニケーションの基本	前期の振り返り	4 介護におけるコミュニケーションの基本	介護におけるコミュニケーションとは	5 介護におけるコミュニケーションの基本	介護におけるコミュニケーションの対象	6 介護におけるコミュニケーションの基本	援助関係とコミュニケーション	7 コミュニケーションの基本技術	コミュニケーション態度に関する基本技術	8 コミュニケーションの基本技術	コミュニケーション態度に関する基本技術	9 コミュニケーションの基本技術	コミュニケーション態度に関する基本技術	10 コミュニケーションの基本技術	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	11 コミュニケーションの基本技術	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	12 コミュニケーションの基本技術	目的別のコミュニケーション技術	13 コミュニケーションの基本技術	集団におけるコミュニケーション技術	14 コミュニケーションの基本技術	集団におけるコミュニケーション技術	15 まとめ・定期試験	
1 ガイダンス 実習の振り返り	プロセスレコード																																	
2 実習の振り返り	実習の振り返り (経験の共有)																																	
3 介護におけるコミュニケーションの基本	前期の振り返り																																	
4 介護におけるコミュニケーションの基本	介護におけるコミュニケーションとは																																	
5 介護におけるコミュニケーションの基本	介護におけるコミュニケーションの対象																																	
6 介護におけるコミュニケーションの基本	援助関係とコミュニケーション																																	
7 コミュニケーションの基本技術	コミュニケーション態度に関する基本技術																																	
8 コミュニケーションの基本技術	コミュニケーション態度に関する基本技術																																	
9 コミュニケーションの基本技術	コミュニケーション態度に関する基本技術																																	
10 コミュニケーションの基本技術	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本																																	
11 コミュニケーションの基本技術	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本																																	
12 コミュニケーションの基本技術	目的別のコミュニケーション技術																																	
13 コミュニケーションの基本技術	集団におけるコミュニケーション技術																																	
14 コミュニケーションの基本技術	集団におけるコミュニケーション技術																																	
15 まとめ・定期試験																																		
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 第2版 5 コミュニケーション技術 中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験成績・課題および授業態度、出席要件等を 加味し総合評価する (基準: 60点以上を合格)																																

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 I	授業の種類 講義	授業担当者 石山 明子																																													
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2)	配当学年・時期 1年 前期																																													
必修・選択 必修																																															
<p>[授業の目・ねらい] 支援の必要な方の日常生活を理解し、その方の状態に合わせた適切な支援ができる知識や技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 家庭生活の営みに必要な知識や環境整備の理解、またICFの視点を生活支援に活かすことの意味を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための生活支援の意義・目的や家事に関する利用者のアセスメントを通し、家事に参加することを支える支援方法を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 生活支援の定義・考え方や住環境整備、家事支援の意義目的を理解し、自立に向けた支援の具体的な方法を理解し、自立に向けた支援の具体的な方法を理解・実践できる。</p>																																															
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 35%;">オリエンテーション</td> <td style="width: 60%;">生活支援の理解、基本的考え方・生活とは何か</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生活支援と介護過程</td> <td>ICFに基づく生活支援①</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>生活支援と介護過程</td> <td>ICFに基づく生活支援②</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>生活支援とチームアプローチ</td> <td>チームアプローチの重要性</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>居住環境整備①</td> <td>住まいの役割と機能・家族と生活空間</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>居住環境整備②</td> <td>生活空間</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>安心で快適な生活の場づくり①</td> <td>快適な室内環境</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>安心で快適な生活の場づくり②</td> <td>快適な室内環境</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>安心で快適な生活の場づくり③</td> <td>安全に暮らすための生活環境</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>安心で快適な生活の場づくり④</td> <td>高齢者・障害者の住まい</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>住環境における多職種との連携</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>生活支援における福祉用具の重要性①</td> <td>福祉用具の定義・意義、福祉用具の種類</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>生活支援における福祉用具の重要性②</td> <td>福祉用具の分類、適切な福祉用具を選ぶための視点</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>生活支援における福祉用具の重要性③</td> <td>福祉用具の適合・モニタリングの視点</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>定期試験</td> <td></td> </tr> </table>			1	オリエンテーション	生活支援の理解、基本的考え方・生活とは何か	2	生活支援と介護過程	ICFに基づく生活支援①	3	生活支援と介護過程	ICFに基づく生活支援②	4	生活支援とチームアプローチ	チームアプローチの重要性	5	居住環境整備①	住まいの役割と機能・家族と生活空間	6	居住環境整備②	生活空間	7	安心で快適な生活の場づくり①	快適な室内環境	8	安心で快適な生活の場づくり②	快適な室内環境	9	安心で快適な生活の場づくり③	安全に暮らすための生活環境	10	安心で快適な生活の場づくり④	高齢者・障害者の住まい	11	住環境における多職種との連携		12	生活支援における福祉用具の重要性①	福祉用具の定義・意義、福祉用具の種類	13	生活支援における福祉用具の重要性②	福祉用具の分類、適切な福祉用具を選ぶための視点	14	生活支援における福祉用具の重要性③	福祉用具の適合・モニタリングの視点	15	定期試験	
1	オリエンテーション	生活支援の理解、基本的考え方・生活とは何か																																													
2	生活支援と介護過程	ICFに基づく生活支援①																																													
3	生活支援と介護過程	ICFに基づく生活支援②																																													
4	生活支援とチームアプローチ	チームアプローチの重要性																																													
5	居住環境整備①	住まいの役割と機能・家族と生活空間																																													
6	居住環境整備②	生活空間																																													
7	安心で快適な生活の場づくり①	快適な室内環境																																													
8	安心で快適な生活の場づくり②	快適な室内環境																																													
9	安心で快適な生活の場づくり③	安全に暮らすための生活環境																																													
10	安心で快適な生活の場づくり④	高齢者・障害者の住まい																																													
11	住環境における多職種との連携																																														
12	生活支援における福祉用具の重要性①	福祉用具の定義・意義、福祉用具の種類																																													
13	生活支援における福祉用具の重要性②	福祉用具の分類、適切な福祉用具を選ぶための視点																																													
14	生活支援における福祉用具の重要性③	福祉用具の適合・モニタリングの視点																																													
15	定期試験																																														
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「生活支援技術 I」 (中央法規) 作成したプリント</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>試験成績・確認テスト・課題及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価とする。(基準: 60点以上を合格とする)</p>																																													

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 I	授業の種類 講義	授業担当者 石山 明子																																													
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2)	配当学年・時期 1年 後期																																													
必修・選択 必修																																															
<p>[授業の目・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援の必要な方の日常生活を理解し、その方の状態に合わせた適切な支援ができる知識や技術を習得する。 ・ 災害時における生活支援を学び、多職種協働の必要性について理解できる。 ・ 高齢者に起こりやすい事故と予防の視点を学び、習得する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭生活の営みに必要な知識や環境整備の理解、災害時における生活支援や多職種協働の必要性について学ぶ。 ・ 高齢者に起こりやすい事故と予防の視点を学び、応急手当の知識と技術方法を知る。 <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援の定義・考え方や災害時における生活支援の方法、多職種協働の必要性を理解できる。 ・ 高齢者に起こりやすい事故と予防の視点を学び、応急手当の知識と技術方法を学び実践できるようになる。 																																															
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 30%;">自立に向けた家事の介護</td> <td style="width: 65%;">自立した家事とは</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自立に向けた家事の介護</td> <td>自立に向けた家事の介護 (調理の介護) ①</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>自立に向けた家事の介護</td> <td>自立に向けた家事の介護 (調理の介護) ②</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自立に向けた家事の介護</td> <td>自立に向けた家事の介護 (洗濯) ①</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>自立に向けた家事の介護</td> <td>自立に向けた家事の介護 (洗濯) ②</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>自立に向けた家事の介護</td> <td>自立に向けた家事の介護 (衣服の補修、衣類・寝具の衛生管理)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>自立に向けた家事の介護</td> <td>自立に向けた家事の介護 (買い物・家庭経営・家計の管理)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>自立に向けた家事の介護</td> <td>家事の介護における多職種との連携</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>災害時における生活支援</td> <td>被災地で活動する際の心構え</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>災害時における生活支援</td> <td>介護福祉士として活動する場所について</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>災害時における生活支援</td> <td>災害時の多職種協働</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>応急手当の知識と技術</td> <td>応急手当について</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>災害時における生活支援</td> <td>応急手当の実際①</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>災害時における生活支援</td> <td>応急手当の実際②</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>定期試験</td> <td></td> </tr> </table>			1	自立に向けた家事の介護	自立した家事とは	2	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (調理の介護) ①	3	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (調理の介護) ②	4	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (洗濯) ①	5	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (洗濯) ②	6	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (衣服の補修、衣類・寝具の衛生管理)	7	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (買い物・家庭経営・家計の管理)	8	自立に向けた家事の介護	家事の介護における多職種との連携	9	災害時における生活支援	被災地で活動する際の心構え	10	災害時における生活支援	介護福祉士として活動する場所について	11	災害時における生活支援	災害時の多職種協働	12	応急手当の知識と技術	応急手当について	13	災害時における生活支援	応急手当の実際①	14	災害時における生活支援	応急手当の実際②	15	定期試験	
1	自立に向けた家事の介護	自立した家事とは																																													
2	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (調理の介護) ①																																													
3	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (調理の介護) ②																																													
4	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (洗濯) ①																																													
5	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (洗濯) ②																																													
6	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (衣服の補修、衣類・寝具の衛生管理)																																													
7	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (買い物・家庭経営・家計の管理)																																													
8	自立に向けた家事の介護	家事の介護における多職種との連携																																													
9	災害時における生活支援	被災地で活動する際の心構え																																													
10	災害時における生活支援	介護福祉士として活動する場所について																																													
11	災害時における生活支援	災害時の多職種協働																																													
12	応急手当の知識と技術	応急手当について																																													
13	災害時における生活支援	応急手当の実際①																																													
14	災害時における生活支援	応急手当の実際②																																													
15	定期試験																																														
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「生活支援技術 I」 (中央法規) 作成したプリント</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>試験成績・確認テスト・課題及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価とする。(基準: 60点以上を合格とする)</p>																																														

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ	授業の種類 講義 ・ 演習	授業担当者 石山 明子																																														
授業の回数 30回	時間数 (単位数) 60 時間 (4)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修																																													
<p>[授業の目・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けた介護技術の意義と目的が理解できる。 ・利用者の潜在能力を引き出す安全で基本的な介護技術を習得できる。 ・人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援やチームワークの実践について理解できる。 																																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">1・2</td> <td style="width: 60%;">ガイダンス</td> <td style="width: 30%;">前期の復習、実習に向けての演習</td> </tr> <tr> <td>3・4</td> <td>自立に向けた食事の介護⑤ 清潔保持の介護⑤</td> <td>水分接種・介助体験</td> </tr> <tr> <td>5・6</td> <td>自立に向けた排泄の介護①②</td> <td>排泄の意義と目的、ICFの視点に基づくアセスメント、工夫と他職種連携</td> </tr> <tr> <td>7・8</td> <td>介護・医療機器の学習</td> <td>福祉用具の使用方法や活用方法、身体状態に合わせた選択・活用方法</td> </tr> <tr> <td>9・10</td> <td>自立に向けた排泄の介護③④</td> <td>安全・的確な排泄の介助技法 (トイレ誘導)</td> </tr> <tr> <td>11・12</td> <td>自立に向けた排泄の介護⑤⑥</td> <td>安全・的確な排泄の介助技法 (おむつ交換)</td> </tr> <tr> <td>13・14</td> <td>自立に向けた排泄の介護⑦⑧</td> <td>安全・的確な排泄の介助技法 (おむつ交換)</td> </tr> <tr> <td>15・16</td> <td>自立に向けた睡眠の介護①②</td> <td>睡眠の意義と目的、ICFの視点に基づくアセスメント、工夫と他職種連携</td> </tr> <tr> <td>17・18</td> <td>自立に向けた睡眠の介護③④</td> <td>安眠を促すための介助の技法</td> </tr> <tr> <td>19・20</td> <td>人生の最終段階における介護①②</td> <td>終末期ケアの意義と介護の役割</td> </tr> <tr> <td>21・22</td> <td>人生の最終段階における介護③④</td> <td>終末期ケアの意義と介護の役割</td> </tr> <tr> <td>23・24</td> <td>自立に向けた身じたくの介護①②</td> <td>整容行動の調整能力のアセスメントと介助技法 (眼・口腔・耳・鼻・爪・髪)</td> </tr> <tr> <td>25・26</td> <td>・27・28</td> <td>実技演習まとめ 実技演習の振り返り</td> </tr> <tr> <td>29・30</td> <td colspan="2">期末試験 (実技)</td> </tr> <tr> <td>31</td> <td colspan="2">期末試験 (学科)</td> </tr> </table>				1・2	ガイダンス	前期の復習、実習に向けての演習	3・4	自立に向けた食事の介護⑤ 清潔保持の介護⑤	水分接種・介助体験	5・6	自立に向けた排泄の介護①②	排泄の意義と目的、ICFの視点に基づくアセスメント、工夫と他職種連携	7・8	介護・医療機器の学習	福祉用具の使用方法や活用方法、身体状態に合わせた選択・活用方法	9・10	自立に向けた排泄の介護③④	安全・的確な排泄の介助技法 (トイレ誘導)	11・12	自立に向けた排泄の介護⑤⑥	安全・的確な排泄の介助技法 (おむつ交換)	13・14	自立に向けた排泄の介護⑦⑧	安全・的確な排泄の介助技法 (おむつ交換)	15・16	自立に向けた睡眠の介護①②	睡眠の意義と目的、ICFの視点に基づくアセスメント、工夫と他職種連携	17・18	自立に向けた睡眠の介護③④	安眠を促すための介助の技法	19・20	人生の最終段階における介護①②	終末期ケアの意義と介護の役割	21・22	人生の最終段階における介護③④	終末期ケアの意義と介護の役割	23・24	自立に向けた身じたくの介護①②	整容行動の調整能力のアセスメントと介助技法 (眼・口腔・耳・鼻・爪・髪)	25・26	・27・28	実技演習まとめ 実技演習の振り返り	29・30	期末試験 (実技)		31	期末試験 (学科)	
1・2	ガイダンス	前期の復習、実習に向けての演習																																														
3・4	自立に向けた食事の介護⑤ 清潔保持の介護⑤	水分接種・介助体験																																														
5・6	自立に向けた排泄の介護①②	排泄の意義と目的、ICFの視点に基づくアセスメント、工夫と他職種連携																																														
7・8	介護・医療機器の学習	福祉用具の使用方法や活用方法、身体状態に合わせた選択・活用方法																																														
9・10	自立に向けた排泄の介護③④	安全・的確な排泄の介助技法 (トイレ誘導)																																														
11・12	自立に向けた排泄の介護⑤⑥	安全・的確な排泄の介助技法 (おむつ交換)																																														
13・14	自立に向けた排泄の介護⑦⑧	安全・的確な排泄の介助技法 (おむつ交換)																																														
15・16	自立に向けた睡眠の介護①②	睡眠の意義と目的、ICFの視点に基づくアセスメント、工夫と他職種連携																																														
17・18	自立に向けた睡眠の介護③④	安眠を促すための介助の技法																																														
19・20	人生の最終段階における介護①②	終末期ケアの意義と介護の役割																																														
21・22	人生の最終段階における介護③④	終末期ケアの意義と介護の役割																																														
23・24	自立に向けた身じたくの介護①②	整容行動の調整能力のアセスメントと介助技法 (眼・口腔・耳・鼻・爪・髪)																																														
25・26	・27・28	実技演習まとめ 実技演習の振り返り																																														
29・30	期末試験 (実技)																																															
31	期末試験 (学科)																																															
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「6生活支援技術Ⅰ」 「7生活支援技術Ⅱ」 (中央法規) 作成したプリント</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>試験成績・確認テスト・課題及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価とする。(基準: 60点以上を合格とする)</p>																																														

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類		授業担当者
生活支援技術Ⅱ	講義 ・ 演習		石山 明子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間(4)	1年 前期	必修
<p>[授業の目・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・自立に向けた介護技術の意義と目的が理解できる。 ・利用者の潜在能力を引き出す安全で基本的な介護技術を習得できる。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1・2	ガイダンス	基本となる介護技術・アセスメントとは何か、演習の注意事項	
3・4	寝具の整え方	ボディメカニクス、シーツのたたみ方とベッドメイキング	
5・6	自立に向けた移動の介護①②	移動の意義と目的、ICFの視点の基づくアセスメント、体位変換、上方移動	
7・8	自立に向けた移動の介護③④	安楽な体位(仰臥位～側臥位)、ベッドからの起き上がり	
9・10	自立に向けた移動の介護⑤⑥	車椅子への移乗・移動介助(操作・介助)	
11・12	自立に向けた移動の介護⑦⑧	車椅子介助、外出支援	
13・14	自立に向けた身じたくの介護①②	衣生活を調整する能力のアセスメント、座位での衣服の着脱の介助技法	
15・16	自立に向けた身じたくの介護③④	衣生活を調整する能力のアセスメント、臥位での衣服の着脱の介助技法	
17・18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①②	入浴の意義と目的、ICFに基づくアセスメント、工夫と他職種連携、バイタル	
19・20	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③④	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助技法(一般浴・機械浴)	
21・22	自立に向けた食事の介護①②	食事の意義と目的、ICFに基づくアセスメント、工夫と他職種連携	
23・24	自立に向けた食事の介護③④	食事介助体験	
25・26	自立に向けた身じたくの介護⑤⑥	衣生活を調整する能力のアセスメントと介助(臥位での衣服の着脱)	
27・28	実技演習まとめ	前期の振り返り	
29・30	期末試験(実技)		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「6生活支援技術Ⅰ」「7生活支援技術Ⅱ」(中央法規)作成したプリント		試験成績・確認テスト・課題及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価とする。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅱ	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 川端 文悟	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護過程の意義・目的を理解し、他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画の立案、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。			
[授業全体の内容の概要] 利用者の生活を支援していく上で、その利用者が抱えている問題や、どう生活していきたいと思っているのかを基準に情報収集、分析を行い、自立に向けた目標を定め、実施、評価を行う介護過程の展開を事例に基づき学ぶ。また、チームアプローチの必要性を理解する。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 介護過程の意義・目的を理解し、ICFの視点で客観的で科学的・統合的・計画的に展開できる思考過程が展開できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1 介護過程の展開 2 介護過程の展開 3 介護過程の展開 4 介護過程の展開 5 介護過程の展開 6 介護過程の展開 7 介護過程の展開 8 介護過程の展開 9 介護過程の展開 10 介護過程の展開 11 介護過程の展開 12 介護過程の展開 13 介護過程の展開 14 介護過程の展開 15 まとめ・定期試験	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭	事例①を用いた介護過程における情報収集 アセスメントにおける情報のとらえ方 1 アセスメントにおける情報のとらえ方 2 情報の分析 (解釈・関連づけ・統合) 介護上の生活課題のとらえ方 ・介護上のニーズの判断 事例②を用いて介護過程の中の情報収集を行う 情報収集を行う 情報の分析を行う 情報の分析を行う 介護上のニーズのとらえ方・介護上のニーズの判断 介護計画の意義と介護計画に必要な要素・生活支援の目標のとらえ方 介護内容の立案 (利用者の同意のもとで援助を行うことが大切であると学ぶ) 実施の意義と実施時の留意事項・記録の必要性・記録の方法 評価の意義と内容・方法 介護計画の見直しについて チームアプローチの重要性	
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 第2版 9巻 介護過程 中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験成績・課題および授業態度、出席要件等を加味し総合評価する (基準: 60点以上を合格)	

授業概要

授業のタイトル(科目)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 専任教員
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
15	30(1)	1年 ・ 後期
必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>実習の教育効果を上げるため、介護実習前に介護技術の確認を行う。また、実習先のオリエンテーションを受けるための計画・準備を進めるなど、実習に対する総合的な学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>実習のテキストや実習の手引きを参考に、介護実習全般について学び、実習方法や記録の書き方を学習する。また、介護現場について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>○「介護総合演習」は「介護実習」との組み合わせの学びであることを理解する。 ○介護実習2において、課題・目標の達成方法を習得できるようにする。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス/介護実習1報告会について(プロセスレコード) 2 プロセスレコード作成方法 3 プロセスレコード作成方法 4 介護実習1 施設概要作成 5 介護実習1 事前指導 6 介護実習1 報告会にむけて / 報告会資料作成 7 介護実習1 報告会発表原稿作成 8 介護実習1 報告会発表原稿作成 9 介護実習1 報告会 10 介護実習1 報告会 11 施設の理解 / 配属先発表 / 個人票下書き / 電話の仕方 12 介護実習2 個人票完成 13 実習2の課題(情報収集)について 14 実習2の課題(情報収集)について 15 期末試験 (見極めテスト) 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 「介護総合演習・介護実習」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>試験成績・課題及び意欲、提出物、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準:60点以上を合格とする)</p>

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 心ころとからだのしくみ I-2	授業の種類 (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 井上 典子
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必須
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の技術の根拠となる人間の心理的側面について理解する。特に、人間の欲求の基本的な理解や感情、思考等について学び、QOLを高めるような生活支援ができるための基礎的知識を習得する。また、心ころとからだは相互に影響しあい、意欲や行動などへ影響を及ぼしていることを学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間を理解する上で大切な精神医学や心理学、社会学などをもとに基礎的な知識を学ぶ。また『健康』の意味や『発達』の観点を身につけ、加齢やさまざまな疾患・障害によってどのような生活障壁が生じるのかを理解するための基礎を学ぶ。講義を中心に行い、適宜、ビデオ学習やディスカッション、課題レポートの提出を求める。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1) 「心ころ」のしくみについての基礎的知識を身につける 2) 「心ころ」の日常生活への影響についての基礎的知識を身につける 3) 心ころとからだのしくみを理解した上で、介護場面でのさまざまな配慮や安全の視点を身につける</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 「健康」とはなにか 定義とそれぞれの健康観 2. 心ころのしくみの理解 について 「わたし」とは何か 3. 心ころのしくみの理解 について 「欲求」「自己実現と尊厳」について 4. 心ころのしくみの理解 について 「脳のしくみ」について 5. 心ころのしくみの理解 について 「感覚・知覚」について 6. 心ころのしくみの理解 について 「認知のしくみ」について 7. 心ころのしくみの理解 について 「知能」について 8. 心ころのしくみの理解 について 「記憶と学習のしくみ」について 9. 心ころのしくみの理解 について 「思考のしくみ」について 10. 心ころのしくみの理解 について 「感情・情動のしくみ」について 11. 心ころのしくみの理解 について 「意欲・動機づけのしくみ」について 12. 心ころのしくみの理解 について 「適応のしくみ」について1 ストレスのしくみと適応の異常 13. 心ころのしくみの理解 について 「適応のしくみ」について2 人格と適応 14. 心ころのしくみの理解 について 「心理アセスメント・心理療法」について 15. まとめと考査 (定期試験) 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 心ころとからだのしくみ</p> <p>※参考文献 経済界ワークシート式 はじめての心理学 著者 井上のり子</p> <p>※ 適宜、プリントを配布し、課題を課す</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>成績評価基準 (評価割合を%表示) 定期試験 50% レポート 30% 授業態度 20% (基準: 60点以上合格)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)	授業の種類		授業担当者																														
こころとからだのしくみⅡ	(<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習)		木村 あけみ																														
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択																														
15回	30時間 (2単位)	1年 後期	必修																														
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能の理解のもと、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>人体の構造や機能についての基本的な知識をふまえ、意欲や行動などに影響を及ぼす心理的な影響を理解し、それらが日常生活動作にどのように関連してくるのかを認識する。</p> <p>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</p> <p>日常生活動作に関連したこころとからだのしくみが理解できる。</p>																																	
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 移動に関連したしくみ</td> <td>生活の中の移動とは</td> </tr> <tr> <td>2 移動に関連したしくみ</td> <td>移動におけるこころとからだのしくみ</td> </tr> <tr> <td>3 移動に関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が移動に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>4 移動に関連したしくみ</td> <td>変化の気づきと対応。医療職との連携</td> </tr> <tr> <td>5 身じたくに関連したしくみ</td> <td>身じたくにおけるこころとからだのしくみ</td> </tr> <tr> <td>6 身じたくに関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>7 身じたくに関連したしくみ</td> <td>変化の気づきと対応</td> </tr> <tr> <td>8 食事に関連したしくみ</td> <td>食事のしくみ</td> </tr> <tr> <td>9 食事に関連したしくみ</td> <td>消化器のしくみ</td> </tr> <tr> <td>10 食事に関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が食事に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>11 食事に関連したしくみ</td> <td>変化の気づきと対応。医療職との連携</td> </tr> <tr> <td>12 入浴・清潔保持に関連したしくみ</td> <td>入浴・清潔保持のしくみ</td> </tr> <tr> <td>13 入浴・清潔保持に関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>14 入浴・清潔保持に関連したしくみ</td> <td>変化の気づきと対応。医療職との連携</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ・試験</td> <td></td> </tr> </table>				1 移動に関連したしくみ	生活の中の移動とは	2 移動に関連したしくみ	移動におけるこころとからだのしくみ	3 移動に関連したしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響	4 移動に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携	5 身じたくに関連したしくみ	身じたくにおけるこころとからだのしくみ	6 身じたくに関連したしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響	7 身じたくに関連したしくみ	変化の気づきと対応	8 食事に関連したしくみ	食事のしくみ	9 食事に関連したしくみ	消化器のしくみ	10 食事に関連したしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響	11 食事に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携	12 入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持のしくみ	13 入浴・清潔保持に関連したしくみ	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	14 入浴・清潔保持に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携	15 まとめ・試験	
1 移動に関連したしくみ	生活の中の移動とは																																
2 移動に関連したしくみ	移動におけるこころとからだのしくみ																																
3 移動に関連したしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響																																
4 移動に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携																																
5 身じたくに関連したしくみ	身じたくにおけるこころとからだのしくみ																																
6 身じたくに関連したしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響																																
7 身じたくに関連したしくみ	変化の気づきと対応																																
8 食事に関連したしくみ	食事のしくみ																																
9 食事に関連したしくみ	消化器のしくみ																																
10 食事に関連したしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響																																
11 食事に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携																																
12 入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持のしくみ																																
13 入浴・清潔保持に関連したしくみ	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響																																
14 入浴・清潔保持に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携																																
15 まとめ・試験																																	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]																															
こころとからだのしくみ (中央法規)		確認テスト成績、授業態度、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準：60点以上を合格)																															

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解Ⅰ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 井上 典子
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年・前期
必修・選択 必須		
<p>[授業の目的・ねらい] 最初に人間の成長と発達について理解したうえで、発達の観点から老化に伴って生じるこころからだの変化について基礎的知識を学ぶ。また、これらの学習を通して老年期にある人を多面的に理解するとともに、老いや死を肯定的に捉えたり、老年観・人生観・死生観などについて考えたりなどの機会を持つ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間の身体機能と精神機能の年齢に伴う変化とその日常生活への影響についても理解する。まず、発達の観点から「老化」を理解し、次に老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関して、基礎的知識を身につけていく。講義を中心に、適宜、ビデオ学習やディスカッション、課題レポートの提出を求める。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1) 人間の成長と発達の基礎的理解ができる 2) 『老年期』の発達と成熟について理解ができる 3) 老化に伴うこころからだの変化と、それにより日常生活に及ぶ影響について理解できる</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 高齢者の心理理解の必要性 「老年期」には何が起こるか 2. 人間の成長・発達における基礎的知識 「成長・発達の考え方」について 3. 人間の成長・発達における基礎的知識 「成長・発達の原則・法則」について 4. 人間の成長・発達における基礎的知識 「成長・発達に影響する要因」について 5. 人間の発達段階と発達課題 「発達理論」ならびに「発達段階と発達課題」について 6. 人間の発達段階と発達課題 「身体的機能の成長と発達」ならびに「心理的機能の発達」について 7. 人間の発達段階と発達課題 「社会的機能の発達」について 8. 老年期の特徴と発達課題 「老年期の定義」ならびに「老化」について 9. 老年期の特徴と発達課題 「老年期の発達課題」について1 諸理論と諸問題について 10. 老年期の特徴と発達課題 「老年期の発達課題」について2 「老年期をめぐる今日的課題」について 11. 老化にともなうこころの変化と生活 「老化にともなう身体的な変化と生活への影響」について 12. 老化にともなうこころの変化と生活 「老化にともなう心理的な変化と生活への影響」について 13. 老化にともなうこころの変化と生活 「老化にともなう社会的な変化と生活への影響」について 14. 高齢者と健康 「健康長寿に向けての健康」について 15. まとめと考査 (定期試験) 		
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 発達と老化の理解</p> <p>※参考文献 経済界ワークシート式 はじめての心理学 著者 井上のり子</p> <p>※ 適宜、プリントを配布し、課題を課す</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>成績評価基準 (評価割合を%表示) 定期試験 50% レポート 30% 授業態度 20% (基準: 60点以上合格)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 今井 訓子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年 後期
必修		
[授業の目的・ねらい] 発達の見点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴についての基礎的知識を習得する。		
[授業全体の内容の概要] 老化にともなうところとからだの変化と生活への影響について学ぶ。 高齢者に多い病気とその留意点について学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 老化にともなうところとからだの変化と生活について理解できる。 高齢者の健康について理解できる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
コマ数		
1. 身体的機能の成長と発達、加齢にともなう身体機能の全体的低下 老化にともなうところとからだの変化と生活への影響		
2. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響(骨格系・筋系、脳・神経系、感覚器系)		
3. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響(循環器系、呼吸器系、消化器系)		
4. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響(腎・泌尿器系、内分泌・代謝系、免疫系)		
5. 老化にともなう知的機能の変化および社会的な変化と生活への影響		
高齢者と健康		
6. 高齢者の症状・疾患の特徴		
7. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(骨格系・筋系)		
8. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(脳・神経系、感覚器系)		
9. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(皮膚疾患、循環器系)		
10. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(呼吸器系、消化器系)		
11. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(腎・泌尿器系、内分泌・代謝系)		
12. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(歯・口腔疾患、悪性新生物、感染症)		
13. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(精神疾患、その他)		
14. 保健医療職との連携		
15. まとめ・試験		
[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]	
発達と老化の理解 第2版(中央法規)	確認テスト成績、授業態度、集積用検討を加味し、総合評価する。(基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 塚本 淳智 岩出 義隆
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年 後期
必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい] 「認知症の理解Ⅰ」の学びを踏まえ、認知症のある人のこころの変化や生活面への影響に基づく介護を展開する基礎的能力を養う。 認知症のある人及び家族を含めた支援体制のあり方と、具体的な方法について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症のある人の症状に伴う日常生活機能の変化をアセスメントし、具体的な支援を提供する方法を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 認知症のある人の日常生活機能の変化を理解することができる。 認知症のある人を尊重した支援の方法を理解することができる。 認知症のある人及び家族への支援体制の必要性を理解することができる。</p>		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
コマ数	予定日時	担当教員
1 パーソン・センタード・ケア	9月4日 (水)	岩出
2 認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール	9月11日 (水)	岩出
3 認知症の終末期医療と介護	9月18日 (水)	塚本
4 認知症の人とのコミュニケーション	10月16日 (水)	岩出
5 認知症の人へのケア	10月23日 (水)	岩出
6 地域包括ケアシステムにおける認知症ケア①	10月30日 (水)	塚本
7 認知症の人へのさまざまなアプローチ	11月6日 (水)	岩出
8 他職種連携と協働①	11月13日 (水)	塚本
9 環境づくり	11月20日 (水)	岩出
10 他職種連携と協働②	11月27日 (水)	塚本
11 地域包括ケアシステムにおける認知症ケア②	12月4日 (水)	塚本
12 家族への支援	12月11日 (水)	岩出
13 介護福祉職への支援	12月18日 (水)	岩出
14 地域包括ケアシステムにおける認知症ケア③	1月8日 (水)	塚本
15 終了時試験	1月15日 (水)	塚本
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「新・介護福祉士養成講座」 13 「認知症の理解」 11 「こころとからだのしくみ」 適宜プリント配布</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 試験及び学習態度により総合的に評価する。 1) 終了時テスト 70% 2) 授業態度・提出物 15% 3) ミニテスト 15%</p>

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解 I	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 塚本 淳智 岩出 義隆	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 疾患としての認知症について理解を深め、その人らしさを大切にする介護ができる基礎的能力を養う。認知症医療の歴史を踏まえ、認知症のある人を取り巻く環境について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症の原因・症状・予後など、認知症という疾患がたどる経過について学習する。認知症の疾患特性から生じる様々な障害や、行動様式について学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 疾患としての認知症について理解することができる。 認知症のある人を取り巻く環境について理解することができる。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	予定日時	担当教員	
1	認知症のある高齢者の現状と今後 認知症とは何か	4月10日 (水)	岩出
2	認知症の人の心理	4月17日 (水)	岩出
3	脳のしくみ	4月24日 (水)	塚本
4	生活障害の理解	5月1日 (水)	岩出
5	中核症状の理解	5月8日 (水)	塚本
6	BPSDの理解	5月15日 (水)	塚本
7	認知症の診断と重症度	5月22日 (水)	塚本
8	認知症の原因疾患と症状・生活障害①	5月29日 (水)	塚本
9	認知症の原因疾患と症状・生活障害②	6月12日 (水)	塚本
10	認知症を取り巻く状況①	6月19日 (水)	岩出
11	認知症を取り巻く状況②	6月26日 (水)	岩出
12	認知症ケアの理念と視点	7月3日 (水)	岩出
13	認知症当事者の視点から見えるもの	7月10日 (水)	岩出
14	認知症の治療薬と予防	7月17日 (水)	塚本
15	終了時試験	7月24日 (水)	岩出
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「新・介護福祉士養成講座」 13 「認知症の理解」 11 「こころとからだのしくみ」 適宜プリント配布		[単位認定の方法及び基準] 試験及び学習態度により総合的に評価する。 1) 終了時テスト 70% 2) 授業態度・提出物 15% 3) ミニテスト 15%	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 木村 あけみ
授業の回数 10回	時間数 (単位数) 15時間 (1単位)	配当学年 時期 1年 後期
必修・選択 必修		
【授業の目的・ねらい】 医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割について理解する。 急変状態へ対応するための基礎知識を習得する。		
【授業全体の内容の概要】 医療的ケアが必要とされた歴史と、医療的ケアを行うにあたり必要な、倫理的配慮を学ぶ。		
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 医療の倫理を理解し、呼吸器・消化器の基礎知識を習得する。		
1 なぜ医療的ケアを学ぶのか	ガイダンス	医療的ケア実施の基礎
2 医療的ケア	①医行為とは (法的な理解) ②喀痰吸引等制度 (社会福祉士及び介護福祉士法の改正)	
3 //	③医療的ケアと喀痰吸引等の背景 ④その他の制度	
4 安全な療養生活	①喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 ②救急蘇生	
5 清潔保持と感染予防	①感染予防 ②介護福祉職の感染予防	
6 //	③療養環境の清潔、消毒法	
7 //	④滅菌と消毒	
8 健康状態の把握	①身体・精神の健康	
9 //	②健康状態を知る項目 (バイタルサインなど)	
10 //	③急変状態について	
[使用テキスト・参考文献] 医療的ケア (中央法規) 介護職のための喀痰吸引・経管栄養ビジュアルガイド (メディカ出版)		[単位認定の方法及び基準] 確認テストの結果及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価する。 ※2年前期に実施する講義総合の筆記試験90点以上を合格とし、後期演習には、合格が必須条件である。